

2017年8月8日

立教大学国際学術研究交流制度
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	異文化コミュニケーション学部・教授
	氏名	李 香鎮
受入学部・研究科・研究所		異文化コミュニケーション学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, Film/Video Department, Massachusetts College of Art and Design 協定の有無：無 所在国：米国
	氏名	Soon-mi Yoo
招へい期間		2017年6月2日～2017年7月1日（30日間）
研究経費		712,930円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2017年6月2日(木)	来日
2017年6月4日(日)	公開講演会、 Cinematic Imagination of War and Human Condition : 「Songs from the North」(2014)の上映とトーク 池袋キャンパス 7号館 7102 教室、参加者: 約 100 人
2017年6月14日(水)	研究会、戦争の記憶とイメージ : 「ssitkim: talking to the dead」(2004)の上映とトーク 池袋キャンパス 1号館 1201 教室、参加者: 15 人
2017年6月21日(水)	授業「Japan in Asia 1」受講者: 36 人
2017年6月28日(水)	研究会、韓国と日本におけるキリスト教の起源 池袋キャンパス1号館 1201 教室、参加者: 20人
2017年7月1日(土)	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

具体的な研究・交流の内容および成果：

1. マサチューセッツ大学芸術デザイン学部の最先端の芸術プログラムと立教大学異文化コミュニケーション学部との共同研究を推進することを決定した。

具体的な研究・交流の内容としては、マサチューセッツ大学芸術デザイン学部と立教大学異文化コミュニケーション学部の教職員と学生達が同時に関心を持つことができるテーマである<立教・ノワール展>を共同開催することを検討した。黒沢清や青山真治をはじめとする立教大学出身の映画監督の作品展と関連学術大会を共同主催し、<立教・ノワール展>をボストンの映画芸術館であるハーバード・フィルム・アーカイブで開催できるように準備作業も共に行うこととした。

2. 「Songs from the North」(2014)と監督論を、北朝鮮を巡る米国の大衆文化とメディア談論の代表的研究事例として考察し、国際学術大会で発表する予定である。(2018年AJSE-エウロピアン・コリアンスタディズ学会-、イタリア、ローマ)。

3. 講演会や研究会の参加者は学生、教職員、一般、大学院生であったが、とりわけ映画や字幕翻訳、人文学に関心を持つ学生が多かった。

参加者の中、特に交換留学生による活発な議論への参加は、今後、交換留学生たちも参加できる国際学術講演会の開催を模索する機会になったと思われる。交換留学生らは日本のキリストの起源と伝来や、東アジアにおける戦争の記憶や米国の役割に対する関心が高かった。交換留学生が参加できる校内の国際学術研究会の開催は、留学生らにとって、より意味深く豊かな経験ができるような教育環境を作ることになると考えている。